



む土地であるせいか、人々の性格は日本でいえば東北人のように粘り強い。人がいいと表現したらいいのかもしれない。派手さはないが、着実な生き方をしている人が多いような気がした。ここでは20名近くに及ぶ同行の先生方のホームステイも世話しなければならない。責任重大であった。在外研究時からの友人でもある磯村夫妻（ミネソタオーケストラ団員とその奥様）にすぎり、セントポール市の教会を介して受け入れ家庭を探してもらった。予想以上にミネソタ州の土

地そのもののイメージに見合う、素敵なお家を紹介してもらった。「表情がなんだか違う」「リラックスできる町だね」「家庭的な暖かさを感じました」といった感想が口々にステイ体験者である先生方から聞こえてきた。ミネソタの魅力は豊かな自然だけではない。そこに住む人にこそ魅力のおおもとがあるように思えるのである。

私にとっては三度目のミネソタ滞在であるが、新発見もあった。一つは州都セントポールに三つの新しい博物館が誕生していたことである。科学博物館、子ども博物館、歴史協会である。実際に訪れることができたのはミネソタ歴史協会のビルである。ここにはミネソタの独特な開発の歴史や文化が見事に展示されていた。興味深かったのはミネソタ音楽である。ジャズやポップな音楽のミネソタ発を知った。ここにすればアメリカ現代音楽のルーツが分かる。

まるでマリリンモンローやロバートレッドフォードが登場してくるような設えのレストランや映画館の模型が展示されている。ファンにたまらない博物館であろう。

新発見の二つ目は、巨大ショッピングセンターであるモールオブアメリカの増築である。わたしが6年前に2週間だけ滞在した折に比べ、さらに店舗が増えていた。ショッピングセンターはアメリカ文化の側面でもある。巨大な駐車場、品揃えの多さ、エスニック料理店、屋内アミューズメント施設の充実など、うらやましいほどの設備と魅力にとんだ買い物天国がある。滞在時間が短かったのでゆっくりショッピングを楽しめなかったが、買い物好きの日本人にも大人気の場所であろう。こうした巨大ショッピングセンターが成立する背景としてミネソタの冬の寒さもあるかもしれない。寒い冬でも一箇所にくれば、丸1日買い物が暖かい屋内で楽しめるからである。平坦な地形もその成立に寄与している。巨大なモールの敷地や高速道路の建設にも好条件だからである。

三つ目の新発見は、漫画チャーリーブラウンの作者と大西洋横断単独飛行を成功させたリンドバーグの生家があるということである。これはうっかり見逃していた知識だった。かつて滞在していたときにはさほど気にとめていなかったからだ。この二人の有名人の生家があるということだけでもミネソタの雰囲気を知るヒントになるかもしれない。まさにアメリカらしい土地であるということなのだ。

州内には1万以上の湖があるという。まさに森と湖の州である。日本で見慣れている山岳は近くにはない。釣りやキャンプなどアウトドアにはもってこいの州である。しかし、スネイリング砦にも見られるように独特の開拓物語もある。3Mという有名な会社もある。日本人が少ない州だけに逆に日本への初期的な興味関心も強い。忍者や着物、神道、芸者、茶道など日本的な紋切り型の文化がまだ日本イメージの中心に居座っている。しかし、人種差別の少ない州であり、保守的でありながら外部への好奇心も持っているミネソタ州でもある。アメリカ理解を進める上で欠かすことのできない州と私は考えている。